



この夏休みの「まちごミッション」

校長 五十嵐 俊子

★どんなときでも自分の命を守る

九州北部を襲った記録的な豪雨から2週間。犠牲となられた方、今も安否不明の方がいらっしゃいます。被害にあわれた方々に心よりお見舞い申し上げます。

今回の豪雨を受け、改めていろいろな自然災害に対しての防災への意識を常にもっておかなければならないと痛感させられました。この夏休みも、台風やゲリラ雷雨など、豪雨災害に襲われる可能性は十分ありますし、地震がいつ起こってもおかしくありません。日本に住む私たちは、自然災害と隣り合わせに生きていると言っても過言ではありません。避けることのできない自然災害ですが、被害を最小限にするための努力が大切です。

かけがえのない命を守るために、どんなときでもあわてずあきらめずに、自分で考え判断し行動できるような力、いろいろな人と力を合わせて困難を乗り越える力を育てていきたいと思います。この夏休みは、ぜひ、災害時について大人がいないときにどうするか等も含めてご家庭で話し合ってみてください。

★チームワーク力を育成する「お手伝い」

家族の一員として、子供たちにもお手伝いをさせる大切さは言うまでもありません。夏休みには自分の役割を決めて、主体的にお手伝いをしてくれることを願っています。このことについて、とても興味深い話をご紹介します。国際宇宙ステーションに142日間滞在し、数々のミッションを成功させた宇宙飛行士の油井亀美也氏が、宇宙飛行士に欠かせないチームワーク力について語られたお話です。

「何千人、何万人という人たちが宇宙飛行士の仕事を支えており、チームワークが命です。いろいろな専門分野の人たちが、それぞれにしっかり仕事をして、力を結集しないと成功しません。自分の子供の頃を振り返ってみて、チームワーク力を鍛えるのにいちばん役立ったのは、『家のお手伝い』でした。勉強も大事ですが、それと同じくらい家のお手伝いをするのも大切だと思います。家族は社会の一部ですし、お父さんお母さんがリーダーだとしたら、「言われる前にやる」というのも素晴らしいサポート力です。」

★夏休みだからこそじっくりと外の世界を見つめて考える機会をもつ

たっぷり自分の興味・関心があることに浸れる夏休みです。外に出て(熱中症には十分に気を付けながら)、五感を働かせると、身の回りの自然からたくさんの発見があります。想像力をフル回転して欲しいと思います。

ちょっと難しい話になりますが、伊藤穰一氏のお話を紹介します。マサチューセッツ工科大学(MIT)メディアラボの所長として、最先端の研究をされている方です。先に紹介した先日の油井宇宙飛行士との対談で、この夏休みに子供たちに期待することとして、次のようなことをおっしゃっていました。

「1日1回はいつもとは違う外の世界を見て、これを作るために何が関係してきているのか、想像してみたいのです。たとえば朝ごはんに出たトマトであれば、育てるための肥料はどこから来て、トマトを食べるとどこにつながっていくのか。何と何がどうつながっていて、その中に自分はどうやって参加しているのかという感覚を、つねに養ってほしい。さらに、自分はこの世の中にどのように関わっているのか。その感覚がなくなると、環境問題や科学技術からどんどん離れていってしまいます。意識的にそれを味わって欲しいのです。」

すべてのものは、『システム』の中でつながっていること、目の前の人やものとのつながりを意識し、これからの新しいつながりを考えていくこと、これは私たち大人にとっても必要な見方・考え方なのかもしれません。

まちごの子供たちにとって、安全で楽しく、充実した夏休みになりますように、地域、保護者のみなさま、どうぞよろしく願いいたします。



7月18日、第4学年の児童は、総合的な学習の時間に作成した安全マップを見せながら、第3学年の児童に地域の安全についてレクチャーしました。